

環境技術実証事業（ヒートアイランド対策技術分野
（オフィス、住宅等から発生する人工排熱低減技術）
地中熱・下水等を利用したヒートポンプ空調システム）
今までの検討経緯について

1. 今までの検討経緯

当該技術分野の平成 21 年度における検討経緯を下表に示す。

表 1 検討経緯

日時	項目	検討内容
平成 21 年 4 月 23 日	WG 会合（第 1 回）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実証試験要領（案）に関する検討 ・ 実証機関の公募・選定に関する検討
5 月 22 日	WG 会合（第 2 回）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実証機関の審査
7 月～	実証試験の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゼネラルヒートポンプ工業（株） 実証単位：B 期間：7/25～平成 22 年 3/1 ・ ミサワ環境技術（株） 実証単位：C 期間：7/25～8/10 ・ JFE 鋼管（株）、JFE スチール（株） 実証単位：A 期間：8/1～平成 22 年 1/29
12 月 10 日	拡大 WG 会合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業や対象技術への要望・意見 ・ 実証によるメリット向上についての要望・意見
平成 22 年 1 月～	ヒアリングの実施	検討員及び環境技術開発者に対し、来年度の実証方針及び来年度に向けた実証試験要領の改訂方針等に関してご意見を伺った。
3 月 8 日 （本日）	WG 会合（第 3 回）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実証試験結果報告書の検討 ・ 実証試験要領の見直しについて

2. ワーキンググループ会合（第2回）議事概要

平成21年5月22日（金） 10:00～12:00

株式会社三菱総合研究所 2階 セミナー室C

議事次第

1. 開会
2. 議事
 - (1) 第1回 WG 議事概要
 - (2) 実証試験要領について
 - (3) 実証機関の募集・選定について
 - (4) 今後の検討スケジュールについて（予定）
3. 閉会

配付資料一覧

- | | |
|-----|--------------------------|
| 資料1 | 第1回 WG 議事概要 |
| 資料2 | 実証試験要領 |
| 資料3 | 実証試験要領の策定及び実証機関応募の開始について |
| 資料4 | 実証機関選定の考え方について |
| 資料5 | 実証機関の募集における申請書類について |
| 資料6 | 審査結果記入用紙（非公開資料） |
| 資料7 | 各団体からの申請書類（非公開資料） |
| 資料8 | 今後の検討スケジュールについて（予定） |

議事

会議は公開で行われた

(1) 第1回 WG 議事概要

- ・ 事務局より、資料1に基づき、第1回 WG 議事概要に関して説明、及びその確認が行われた。

(2) 実証試験要領について

- ・ 事務局より、資料2、3に基づき、実証試験要領の策定、及びその報道発表の経緯に関して説明、及びその内容の確認が行われた。

(3) 実証機関の募集・選定について

- ・ 事務局より、資料3、4、5に基づき、実証機関の募集の経緯、及びその選定基準に関して説明、及びその内容の確認が行われた。
- ・ 実証機関への応募団体（特定非営利活動法人 地中熱利用促進協会）より、資料7に基づき、申請内容について説明がされた。
- ・ 申請内容に関して、応募団体に対するヒアリング及び質疑が行われた。
- ・ 上記のヒアリング及び質疑の内容を踏まえ、実証機関の選定に関する議論、及びその適性に関する審査が行われた。
- ・ 審査の結果、以下の項目を改善し、その体制を明確化することを条件に、応募団体を実証機関として承認するとの意見の一致が得られた。

－事務手続き関係の人員及び技術監査担当者の確保

－コンプライアンスの確保

－環境技術開発者が実証機関に所属する企業である場合の、適切な実証試験体制の確保

(4) 今後の検討スケジュールについて

- ・ 事務局より、資料8に基づき、今後のスケジュールに関して説明、及びその内容の確認が行われた。

3. 拡大ワーキンググループ会合議事概要

平成 21 年 12 月 10 日（木） 15：00～17：00

航空会館 5階 502 会議室

議事次第

1. 開会
2. 議事
 - (1) 環境技術実証事業 ヒートアイランド対策技術分野（オフィス、住宅等から発生する人工排熱低減技術）地中熱・下水等を利用したヒートポンプ空調システムの概要について
 - (2) 本事業及び実証試験への要望、意見について
 - (3) 未検討の技術分野について
 - (4) その他
3. 閉会

配布資料一覧

- | | |
|--------|---|
| 資料 1 | 環境技術実証事業の概要について |
| 資料 2 | 環境技術実証事業（ヒートアイランド対策技術分野（オフィス、住宅等から発生する人工排熱低減技術）地中熱・下水等を利用したヒートポンプ空調システム）の概要について |
| 資料 3 | 事業及び対象技術分野に関する要望・意見について |
| 資料 4 | 未検討の技術分野について |
| 資料 5 | 今後の検討スケジュールについて |
| 参考資料 1 | 実証試験要領 |
| 参考資料 2 | ご意見募集要領 |

議事

会議は公開で行われた。

- (1) 環境技術実証事業 ヒートアイランド対策技術分野（オフィス、住宅等から発生する人工排熱低減技術）地中熱・下水等を利用したヒートポンプ空調システムの概要について
 - ・ 事務局から、資料 1、2 に基づき、「環境技術実証事業の概要」及び「ヒートアイランド対策技術分野（オフィス、住宅等から発生する人工排熱低減技術）地中熱・下水等を利用したヒートポンプ空調システムの概要」を説明。また、本会合の趣旨としては、より効果的な制度の構築のための意見集約であることを説明。

(2) 本事業及び実証試験への要望、意見について

- ・ 事務局から、資料3に基づき、「対象技術及び事業の運用についての要望・意見」の概要を説明。その後、出席委員からの要望・意見及び今後の見当方針に関する発言。主な発言内容は以下の通り。

(対象技術及び事業の運用について)

- ・ 実証試験要領で示された試験項目が多く、時間的にも費用的にも負担が大きいとの指摘があった。また、今後は試験の負担を緩和できるような試験方法を検討すべきとの意見があった。
- ・ ヒートアイランド対策技術としてだけでなく、温暖化対策に対する効果を総合的に評価できるような実証内容とすべきとの意見があった。
- ・ 「ヒートアイランド対策技術分野」という本事業の趣旨と、実証項目の整合性を明確化すべきであるとの意見があった。また、本事業では、ヒートアイランド抑制効果を評価する実証項目を主として扱っていくべきとの意見があった。
- ・ 実証には精度の高いデータが必要であり、実証試験要領内で機器やその測定精度に関する規定を設けるべきとの意見があった。

(実証によるメリット等の向上について)

- ・ 現状では、実証対象製品が別の現場に施工されればロゴマークを使用することはできず、ETV ロゴマークを取得するインセンティブは低いとの指摘があった。
- ・ 実証項目に関するデータ等を蓄積することで、実証対象の性能の判断材料を整備し、インセンティブを高めていくべきとの意見があった。また、そのためには、実証の負担を減らして実証数を稼ぐこと、他事業での測定データを活用すること等が必要であるとの意見があった。
- ・ 今後もロゴマークの知名度や取得メリットを高める検討を進めるべきとの意見があった。

(3) 未検討の技術分野について

事務局から、資料4に基づき、「未検討の技術分野について」を説明。

- ・ 地下水、下水等を利用するシステムを、今後も実証対象として検討していくべきとの意見があった。
- ・ 地下水を利用するシステムの場合は、地下水の量や水質、土壌等に関して、システムと周辺環境の相互影響を考慮して検討すべきとの意見があった。

(4) その他

- ・ 事務局から、資料5に基づき、平成21年度スケジュールについて説明。